

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○千里・北大阪地域を中核とし、研究者・製薬企業が参集・交流し、優れた研究者が育成され、新たな医薬品・技術の開発が進んでいく「ライフサイエンスの拠点形成」を目指す。

対応方針

1 人材育成事業
ライフサイエンスの発展を担う人材を育成。

2 研究助成事業
優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成。

3 実用化支援事業
大学・研究機関等の研究成果の民間における実用化を支援。

4 普及・啓発事業
ライフサイエンスの重要性を啓発し、知識・成果の普及に努める。

5 法人運営の安定化
より効率的・効果的な事業運営に努める。

戦略目標【参考：中期経営計画の目標値】

① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成
・千里ライフサイエンスセミナー参加者
【774名 (H23) → 4,000名 (H24~28 累計)】
・新適塾参加者満足度
講師：【82% (H24 実績見込) → 80% (H25)】
テーマ：【83% (H24 実績見込) → 80% (H25)】
・新適塾参加者
【1,158名 (H23) → 5,000名 (H24~28 累計)】

②優れた若手の先進的研究を支援・助成
・奨励研究助成件数
【12件 (H23) → 50件 (H24~28 累計)】
・奨励研究助成応募件数
【148件 (H23) → 750件 (H24~28 累計)】

③研究成果の実用化を支援
・「SENRI の会」での研究発表件数
【9件 (H23) → 40件 (H24~28 累計)】
・競争的資金獲得件数
【5件 (H23) → 25件 (H24~28 累計)】
・提携に向けた企業紹介件数
【9件 (H23) → 50件 (H24~28 累計)】

④ライフサイエンスの情報発信拠点づくり
・千里ライフサイエンスフォーラム参加者
【905名 (H23) → 5,000名 (H24~28 累計)】
・ホームページアクセス件数 (月平均)
【1,692件 (H23) → 3,000件 (H28)】

⑤経営資源の有効活用
・総労働時間 (マンパワーの効率化)
【9,674H (H24 実績見込) → 9,600H (H25)】

中期経営計画に基づく基本方針(目標設定の考え方)

中期経営計画の概要

<p>中期ビジョン (法人が目指す中期の到達点)</p>	<p>大学、試験研究機関、産業、行政の連携・交流を促進するとともに、研究とその実用化を支援することにより、ライフサイエンス分野における大阪の優れた特性を更に伸ばし、研究・開発と産業の活性化を通じて社会に貢献する。このミッションに沿って、公益財団法人として、永続的・恒常的、柔軟に各公益事業のブラッシュアップを図る財団であり続ける。</p>	<p>中期経営計画名称 (計画期間) 公表先URL</p>	<p>公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団 中期経営計画 (平成24年度～平成28年度) http://www.senri-life.or.jp</p>
----------------------------------	---	---------------------------------------	--

戦略	成果測定指標	単位	最終年度の到達目標	目標達成のための活動事項
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者数	人	累計4,000人	製薬企業の研究者が興味を示すようなテーマ、最先端技術の応用・普及に繋がるテーマを選択する。他団体HPや雑誌等を活用してさらに開催の周知を図る。
	新進塾参加者数	人	累計5,000人	大学及び企業の若手研究者が興味をもちそうなテーマで研究している人を講師に選定する。
② 優れた若手の先端的研究を支援・助成	奨励研究助成件数	件	累計50件	厳正な審査を行い採択レベルの向上を図る。
③ 研究成果の実用化を支援	「SENRIの会」での研究発表件数	件	累計40件	前年度受賞者だけでなく、過去の発表者や発表辞退者の中で研究の進展がみられる人も対象に含め、産学連携の機会とする。
	競争的資金獲得件数	件	累計25件	JSTやNEDO等の競争的資金の活用に向け、研究者や関係企業をサポートする。
	提携に向けた企業紹介件数	件	累計50件	創薬・創薬支援分野の参入企業等への参画を促進し、ライフサイエンス企業ネットワークを実効性の高いものとしていく。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	累計5,000人	魅力的な公演テーマ、講師の設定を行う。テーマに応じて会員以外にも積極的に参加募集を行う。若年層へのクラブ会員拡大を図る。
	公開講座参加者数	人	累計3,000人	一般市民を対象に、身近なテーマ設定を行う。一般市民が参加しやすいよう土曜日に開催する。
	ホームページアクセス件数(月平均)	件	3,000件	「Facebook」等(SNS)を利用し、既存HP読者に加えて、若年層を主な対象とした財団活動の周知を図る。

(参考)H25経営目標

I. CS(利用者満足度)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略	成果測定指標	単位	H25目標値	中期計画H25目標値	H25目標値設定の考え方(数値の根拠)
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者数	人	800人	800人	中期経営計画の累計目標からH25目標値を設定。
	(CS調査)新進塾参加者満足度	%	講師 80% テーマ 80%	—	高水準の参加者満足度を安定的に維持していくこととし、前年度に引き続き80%を目標とする。
② 優れた若手の先端的研究を支援・助成	新進塾参加者数	人	1,000人	1,000人	中期経営計画の累計目標からH25目標値を設定。
	奨励研究助成件数	件	10件	10件	中期経営計画の累計目標からH25目標値を設定。
③ 研究成果の実用化を支援	奨励研究助成応募件数	件	150件	—	審査体制との関係から可能な最大数を目標とする。
	「SENRIの会」での研究発表件数	件	8件	8件	中期経営計画の累計目標からH25目標値を設定。
	競争的資金獲得件数	件	5件	5件	中期経営計画の累計目標からH25目標値を設定。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	提携に向けた企業紹介件数	件	10件	10件	中期経営計画の累計目標からH25目標値を設定。
	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	1,000人	1,000人	中期経営計画の累計目標からH25目標値を設定。
	ホームページアクセス件数(月平均)	件	2,100件	2,100件	中期経営計画の最終目標からH25目標値を設定。

II. 財務・効率性(健全性・採算性、コスト抑制と経営資源の有効活用、自律性の向上)

戦略	成果	単位	H25目標値	中期計画H25目標値	H25目標値設定の考え方(数値の根拠)
⑤ 経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)	時間	9,600時間	—	平成24年度目標10,600時間を達成できたことから、更に事務事業の一層の効率化を図り総労働時間の削減を目指す。

24年度の経営目標達成状況及び25年度目標設定表

法人経営者の考え方 (平成25年度の課題と重点目標)	○当財団は、そのミッションを果たすため、ライフサイエンスに関する研究交流拠点機能を通じ、「人材育成事業」「研究助成・支援事業」「普及啓発事業」「研究の実用化支援」を柱として、多様な事業を実施しており、個々の事業内容については、財団企画委員会や役員による提案、検討を通じて、交流拠点機能と事業の質的向上の好循環を図りつつある。 ○平成25年度の課題と重点目標 (課題) 若手研究者育成の更なる推進 (重点目標) 新進塾への若手参加者の満足度の向上
--------------------------------------	---

I. CS(利用者満足度)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウェイト(H24)	H23実績	H24目標		ウェイト(H25)	H25目標	戦略目標達成のための活動事項
						実績(員人)	実績(員人)			
①産学官の研究交流促進と研究人材の育成	(CS調査)新進塾(若手研究人材育成事業)参加者満足度(アンケート項目4のうち、「講師」及び「テーマ」を選択した結果)		%	10	講師79.8% テーマ80.3%	講師80% テーマ80%	講師82.0% テーマ83.0%	10	講師80% テーマ80%	常に新鮮でエキサイティングなテーマ設定等を回りつつ、参加者満足度の安定向上を図る。
	新進塾(若手研究人材育成事業)参加者数		人	10	1,158	840	992	10	1,000	大学及び企業の若手研究者が興味を持ちそうなテーマで研究している人を講師に選定する。
	新規模因策として企業等訪問件数		社	5	43	20	20	—	—	—
	千里ライフサイエンスセミナー参加者数	☆	人	—	(774)	—	(830)	20	1,800	製薬企業の研究者が興味を示すようなテーマ、最先端技術の応用・普及に繋がるテーマを選択する。他団体HPや雑誌等を活用してさらに開催の周知を図る。
②優れた若手の先進的研究を支援・助成	奨励研究助成件数	☆	件	—	(12)	—	(12)	5	110	厳正な審査を行い採択レベルの向上を図る。
	奨励研究助成応募件数	☆	件	—	(148)	—	(153)	5	1150	財団HPで応募要領を明示する。自然科学分野に関する学部・大学院を有する関西の主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。
③研究成果の実用化を支援	製品化、企業との提携・技術移転件数		件	10	4	4	4	—	—	—
	共同研究件数		件	10	2	4	4	—	—	—
	「SENRIの会」での研究発表件数	☆	件	—	(9)	—	(7)	10	8	前年度受賞者だけでなく、過去の発表者や発表辞退者の中で研究の進展がみられる人も対象に含め、産学連携の機会とする。
	競争的資金獲得件数		件	10	5	5	5	10	5	JSTやNEDO等の競争的資金の活用に向け、研究者や関係企業をサポートする。
	公的競争的資金個別相談対象社数		社	5	20	20	20	—	—	—
	提携に向けた企業紹介件数		件	5	9	10	10	10	10	10
④ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	☆	人	—	(905)	—	(933)	5	1,000	魅力的な講演テーマ、講師の設定を行う。テーマに応じて会員以外にも積極的に参加募集を行う。
	ホームページアクセス件数(月平均)	☆	件	—	(1,692)	—	(1,847)	5	2,100	『Facebook』等(SNS)を利用し、既存HP読者に加えて、若年層を主な対象とした財団活動の周知を図る。

II. 財務・効率性(健全性・採算性、コスト抑制と経営資源の有効活用、自律性の向上)

経営基盤の強化	寄附金の確保		万円	15	2,120	2,500	—	—	—
⑤経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)		時間	10	11,600	10,600	10	9,600	事務事業の一層の効率化等を行い、常勤職員(役員・管理職、コーディネータ、製薬企業出向者を除く)の総労働時間数の縮減をめざす。
						9,674			
						—			

CS調査の実施概要

○平成24年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
新適塾(若手研究人材育成事業)参加者満足度	アンケート調査	新適塾参加者	992人	新適塾開催都度(年12回)

CS調査実施後の改善事例
常に新鮮でエキサイティングなテーマ設定等を図ることにより、講師及びテーマに対する参加者満足度も安定的に80%を維持することができている。

○平成25年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
新適塾(若手研究人材育成事業)参加者満足度	アンケート調査	新適塾参加者	1,000名	新適塾開催都度(年12回)

・CS調査 平成25年度目標(再掲)

戦略目標	成果測定指標	単位	H23実績	H24目標	H25目標値	H25目標値設定の考え方 (数値の根拠)
				実績(見込)		
産学官の研究交流促進と研究人材の育成	(CS調査)新適塾(若手研究人材育成事業)参加者満足度(アンケート項目4のうち、「講師」及び「テーマ」を選択した結果)	%	講師79.8% テーマ80.3%	講師80% テーマ80%	講師80% テーマ80%	常に新鮮でエキサイティングなテーマ設定等を図りつつ、参加者数の安定拡大を図る。
				講師82.0% テーマ83.0%		

アンケート

新適塾の今後の参考とさせていただきますので、ご協力下さいますようお願い申し上げます。該当する箇所を○で囲み、括弧内にはコメントをお願い致します。

1. 年令、所属、専門分野についてお聞かせ下さい。
年 令：①～20才代 ②30才代 ③40才代 ④50才以上
所 属：①産業界 ②大学院生 ③学部学生 ④大学職員 ⑤官公庁 ⑥その他()
専門分野：()
2. このセミナーを何でお知りになりましたか。(複数回答可)
①ホームページ(当財団・その他：)
②財団からのEメール
③その他()
3. 今まで新適塾へ参加した回数を以下からお選び下さい。
①今回が初めて ②1～2回 ③3～4回 ④5回以上
4. 今回の新適塾に出席しようと思った理由を以下からお選び下さい。(複数回答可)
①講演の内容に興味があったから
②先生または上司に勧められたから
③その他()
5. 今回の講演の難易度についてお知らせ下さい。
①理解できた ②一部理解できなかった ③難しかった ④その他
6. 今回の講演に対する感想をお知らせ下さい。
I: テーマについて
①大変良かった ②良かった ③もう一つだった ④その他
II: 講師について
① 変良かった ②良かった ③もう一つだった ④その他
理由 []
7. 新適塾は現在3テーマを年各4回行なっており、1テーマにつき3ヶ月に1回の開催となっています。1テーマの開催頻度についてご意見をお聞かせ下さい。
①現状の3ヶ月に1回が適切
②もっと多く()
③もっと少なく()
8. 新適塾の魅力と思われるものはどれですか。(複数回答可)
①講師 ②テーマ ③講義の進め方 ④質問がしやすい ⑤参加者との交流
⑥その他()
9. 新適塾の現在のテーマ「未来創薬への誘い」・「脳と社会」・「難病への挑戦」以外で興味のあるテーマまた、講演を聴きたい先生などに関し希望があればお聞かせ下さい。
10. その他、新適塾の改善点など、ご希望ご意見なんでも結構ですのでご自由にお書き下さい。

【成果測定指標変更（廃止）希望の理由について】

（※ 大阪府から成果測定指標の変更を提示した場合は除く）

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
24年度の成果測定指標	①新適塾参加者数（誘因策；企業等訪問件数） ②製品化、企業との提携・技術移転件数 ③共同研究件数 ④競争的資金獲得件数（誘因策；個別相談対象社数） ⑤提携に向けた企業紹介件数（誘因策；業務提携やマッチング拡充に関心のある企業ネットワークの形成） ⑥寄附金の確保
24年度の目標値	①20社 ②4件 ③4件 ④20社 ⑤150社 ⑥2,500万円
24年度目標の達成状況 （見込）	①20社 ②4件 ③4件 ④20社 ⑤160社 ⑥2,000万円
25年度の成果測定指 （新たに設定を希望す る成果測定指標）	①千里ライフサイエンスセミナー参加者数 ②奨励研究助成件数 ③奨励研究助成応募件数 ④「SENRIの会」での研究発表件数 ⑤千里ライフサイエンスフォーラム参加者数 ⑥ホームページアクセス件数（月平均）
25年度の目標値 （上記新指標の目標値）	①800人 ②10件 ③150件 ④8件 ⑤1,000人 ⑥2,100件
成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	平成24年度に大阪府指定出資法人評価等審議会での議論やご意見を踏まえ、当財団の中期経営計画を策定しました。今回、この中期経営計画に基づいた成果測定指標とするため、大幅に成果測定指標を変更（廃止）するものである。

【目標値未達成の要因について】

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
24年度の 成果測定指標	寄附金の確保
24年度の目標値	2,500万円
24年度目標の達成状況 (見込)	2,000万円
未達成の要因	<p>厳しい経済情勢が続いていること。また、日本では科学技術の振興のために寄付するという意識がまだまだ稀薄であることに加え、企業も直接業務に関連している場合を除き、寄付金を出すことに大きな抵抗があるため。</p> <p>(H24実績；個人1件)</p>
今後の改善方策	<p>一般の個人からの寄付を募るため、財団ニュースでのPRや財団事業参加者へのPRをより積極的に行う。</p>

【H24年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について】

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
成果測定指標	①（CS 調査）新適塾参加者満足度 ②千里ライフサイエンスセミナー参加者数 ③奨励研究助成件数 ④奨励研究助成応募件数 ⑤競争的資金獲得件数 ⑥提携に向けた企業紹介件数
24年度実績値（見込）	①講師82%、テーマ83% ②830人 ③12件 ④153件 ⑤5件 ⑥10件
25年度目標	①講師80%、テーマ80% ②800人 ③10件 ④150件 ⑤5件 ⑥10件
目標達成のための活動事項	①常にエキサイティングなテーマ設定等を図りつつ、参加者満足度の安定向上を図る。 ②製薬企業の研究者が興味を示すようなテーマ、最先端技術の応用・普及に繋がるテーマを採択する。他団体 HP や雑誌等を活用してさらに開催の周知を図る。 ③厳正な審査を行い採択レベルの向上を図る。 ④財団 HP で応募要領を開示する。自然科学分野に関する学部・大学院を有する関西の主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。 ⑤北大阪バイオクラスター・ライフサイエンスネットワーク参画企業の拡大に努めるとともに、競争的資金に関する情報提供・働きかけを進める。 ⑥専門実務セミナー・東西交流会等開催し、その機会に名刺交換会の時間・場を設定する等により業務提携を促していく。
法人の活動事項を全く行わない場合、想定される数値（水準）	①不明 ②不明 ③不明 ④不明 ⑤0件 ⑥0件
考え方 （中長期のトレンド等）	・ 中期経営計画の累計目標から平成25年度目標値を設定し、堅実に目標達成に向けて努力する。 ・ 何よりも事業の質、内容の維持向上を目指す。